光信公ゆかりの地紀行1

秋田県横手市　～光信公のルーツを訪ねて～

光信公
津軽藩始祖
入部530年

津軽藩始祖とされる武将・大浦光信公が、岩手県久慈から鰺ヶ沢町種里に入部したのは延徳3年（1491）。今年は光信公入部から530年目にあたります。

戦乱の世を生きた光信公ですが、そのルーツをひもとけば、現在の秋田県、岩手県、青森県にまたがる壮大な歴史ストーリーが浮かび上がってきます。今月号から、知られざる歴史の縁で結ばれた光信公ゆかりの地をご紹介していきましょう。

■光信公の先祖を探る

津軽家では、津軽統一の出発点となった大浦光信が「始祖」として代々敬われてきました。ところで光信以前の系図はどうなっているのでしょうか。

現在、最も信ぴょう性が高いとされる「高屋家文書」（藩の公式史書「津軽一統志」付巻）などによると、光信の祖父・金沢家光までルーツをさかのぼることができます。

金沢家光―南部氏の一族で下久慈の領主でしたが、後に仙北の金沢城（現在の秋田県横手市）に入ったとされる人物です。家光はその後、地元の小野寺氏らとの戦いに敗れ、あえなく自害したとされています。

家光が自害した時、その子の家信はまだ3歳の若君でした。家信は、家臣の大曲和泉守に抱かれて南部領へ逃れ、下久慈の領主となります。やがて家信の子として生まれたのが光信でした。

横手で非業の死を遂げた祖父、久慈への若君の逃避行、そして誕生した光信は鰺ヶ沢町へ赴くことに。数奇な運命に翻弄されながら、光信とその一族は戦国乱世を生き抜いていくことになるのです。

金沢城の航空写真（横手市教育委員会提供）

■金沢家光の城

光信の祖父・金沢家光の城だったとされるのが横手市の金沢城です。広大な横手盆地を見わたせる山上に築かれており、本丸や二の丸を中心とした大規模な戦国時代の山城の姿がそのまま残っています。

城跡の発掘調査では、金沢家光の時代に対応する陶磁器類も出土しており、当時、仙北地方に勢力を持っていた南部氏の城であったことが推定されています。さらに城跡の周辺では、平安時代後期の後三年合戦の舞台となった「金沢柵」の候補地として、現在も横手市教育委員会による発掘調査が続けられています。金沢城や金沢柵に関する資料・出土品は、すぐ近くの「後三年合戦金沢資料館」で見学することができます。

久慈市から奥羽山脈を越えて約137キロ、鰺ヶ沢町から約160キロも離れたはるか遠方の地に、光信公のルーツがつながっていたというのは驚きです。この地で生涯を終えた金沢家光に思いをはせながら、いよいよ津軽藩誕生への歴史の旅が始まります。

（町学芸員　中田）

◉歴史紀行マップ

横手市のプロフィール

横手盆地の中央に位置する秋田県南部の中心都市。B級グルメの横手焼きそば、2月に行われる伝統行事の「かまくら」などが全国的に有名。